平成２年５月25日
No. 43
編集・発行 小浜市議会事務局

おばま 市議会だより

第１回定例会 ［会期 3月8日～3月23日］

平成２年第１回小浜市議会定例会が３月８日に招集された。　今回の定例会では常任委員会委員の所属変更を行ない、平成２年度小浜市一般会計予算をはじめ、決算特別委員会に付託されていた昭和63年度決算の認定、請願・陳情等 議案39件、認定９件等の審査採択をし、23日に閉会した。

常任委員会

総務

委員長	石橋和彦
副委員長	富永一夫
委員	松尾剛
委員	山本肇
委員	深谷嘉勝
委員	小川多嘉士

建設

委員長	岡明男
副委員長	宮川建一
委員	寺本久雄
委員	松崎茂明
委員	松井正一
委員	村上一司

産業経済

委員長	浜岸利一
副委員長	中澤吉次
委員	野村定彦
委員	辻長三郎
委員	岡本治

教育民生

私員長	森下智
副委員長	坂下均
委員	岡尾正雄
委員	木橋正昭
委員	今島寿夫
委員	山藤貞雄

報告 決算特別委員会

平成元年第四回市議会定例会において閉会中の継続審査となっていた昭和六十三年度小浜市一般会計歳入歳出決算並びに昭和六十三年度小浜市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算外七件の特別会計歳入歳出決算（合計九件）の認定につき、一月十七日、十九日、二十四日、二十五日、二十九日、三十一日、二月二日の七日間にわたり審査を行なった。

また、委員会最終日には現地調査をも行ない、採決の結果、すべての決算につき認定すべきものと決した。

（認定案件は次のとおり）

認定第3号 昭和63年度小浜市一般会計歳入歳出決算
認定第4号 昭和63年度小浜市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算
認定第5号 昭和63年度小浜市加斗財産区運営事業特別会計歳入歳出決算
認定第6号 昭和63年度小浜市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算
認定第7号 昭和63年度小浜市駐車場事業特別会計歳入歳出決算
認定第8号 昭和63年度小浜市老人医療特別会計歳入歳出決算
認定第9号 昭和63年度小浜市下水道事業特別会計歳入歳出決算
認定第10号 昭和63年度小浜市南川地区土地区画整理事業特別会計歳入歳出決算
認定第11号 昭和63年度小浜市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算

決議

ゆとり宣言に関する決議

すべての国民が生活にゆとりをもち、充実した自由な時間と潤いのある生活をおくることができるようにすることは、人間性豊かな社会の建設にとって重要なことであります。

しかし、欧米諸国に比較してわが国の労働時間は長く、このことが勤労国民の「家庭の幸せ」づくりの支障となり、また豊かさが実感できない要因ともなっております。

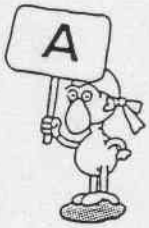
特に福井県は全国比較でも１、２位を争う長時間労働県といわれており、全県民が一体となって克服しなければならない課題となっております。

週に２日は仕事の手を休め、時には長い休暇を楽しみ、団らんのある暮らしがおくれるよう生活環境の整備、条件整備等に全力を尽くし国民生活の向上のために、ゆとりと豊かさを実現するよう決議する。

平成２年３月23日

小浜市議会

一般質問ハイライト



三月定例会の一般質問は十五日・十六日両日にかけて行なわれ、中澤・坂下・石橋・小川・寺本・山藤・岡尾・富永・岡本の九議員が市政各般に渡り市当局の姿勢を問いただした。

【質問と答弁の主な要旨は次のとおり】

健康元年

質問

今年、健康都市宣言元年と位置づけられ、まことに時期を得た施策であると思うが、単に市民の体や心の健康だけでなく、環境的健康、健全な社会をも作りだす総合的な健康都市づくりを目指さなければ意義がないと考えるが、施策の軸を見る限りこの点が欠けているように思う。また健康都市宣言をするための大会、式典等を持つ計画はないか。

答弁

現在の市民生活を考えるに、かつての物に対する充足感指向から心の充足感指向、ゆとり、うるおい、快適性へと生活の質の高さが求められており、その基本とも言える健康指向も非常に高まってきている。そうした中で成人病と言われる病気が中高年齢層の健康を脅かし、また高齢化社会の進行に伴ない寝たきり老人や痴ほうなどの介護を要する老人も増えてきており、これらのことも問題化されてきている。また飽食時代と言われ

会期日程

8日	議会運営委員会
	本会議（会期決定、決算特別委員長報告、質疑、討論、採決、常任委員所属変更）
9日	本会議（議案上程（補正予算）質疑、討論、採決）
12日	本会議（議案上程、質疑）
13日	本会議（質疑、付託、陳情）
15日	本会議（一般質問）
16日	本会議（一般質問）
19日	総務・建設・産業経済・教育民生各常任委員会
20日	総務・建設・産業経済・教育民生各常任委員会
22日	議会運営委員会
23日	全員協議会、本会議（委員長報告、質疑、討論、採決 追加議案 決議案 諮問 各上程、採決）

る中で不規則な食習慣等による青少年の心身形成への悪影響も懸念され、若い時からの健康教育の必要性も非常に重要となっている。医療費の問題についてもこれが市民の健康度を示すバロメータのひとつとするならば、市民一人当りの額は増加傾向にもある。以上のような現状を返り見るときにどうしても市民の健康づくりを行政施策の大きな柱のひとつにしなければならず、ことしを健康元年の年とさせていただきたいと申し上げた次第である。手はじめとして機構の改革により生活環境課の健康管理部門と市民課保険医療部門を一体化して、より事業の効率化と健康づくり施策推進部門の強化を目指し、新たに健康課を設置させていただきたい。そのうえで保健婦の増員であるとか健康検診の一層の充実、健康実施モデル地区の設置、また今後新たに国の補助制度事業等も取り入れ、行政と市民が一体となって小浜市が全国に誇り得る健康都市づくりを目指したい。ご指摘のあった健康大会についても、こうした健康課が設置された段階にて担当において検討させ、そういった方向にも進めたい。もとより大きな意味において環境対策を含めた健康行政が必要であり、鋭意努力を致したい。

福祉

質問

最近の国における動きは在宅福祉充実に向けた施策が積極的に進められており、政策の柱に高齢者保健福祉十カ年戦略と称してその概要を発表し、今後十カ年に整備すべき在宅福祉についての目標設定を行なった。それに見合う形で国家予算においても老人福祉関係が大幅に増額され、高齢化社会に対応した体制作りが国の重要課題として進められることが明らかになっている。今後の課題として、それぞれの県・市でいかに具体化していくかということであるが、本市の対応をお尋ねする。

答弁

福祉政策としては、心身障害者対策、老人福祉対策、地域改善対策、児童福祉対策といずれも基本施策として推進しているところであるが、本市においても一人ぐらしの老人、寝たきり老人の増加は年々増える傾向にあり、とりわけ在宅福祉にかかる家庭奉仕員については現在その事業を社会福祉協議会に委託をして実施しており、七名の奉仕員が老人のサービスに当っている。またデイサービス事業については将来の老人ホーム改築と合わせ設置したいし、ショートステイ事業についてもこれと合わせてベットの確保をと考えている。その他一人ぐらし老人に係る緊急通報システムの設置等を計画しているところであるが、今後の具体的な施策については、平成二年度において老人を対象とした実態調査を実施し、充分に住民のニーズを把握した上で次年度以降に向けての対策を考えていきたい。

質問

独居老人に係る緊急通報システムを平成二年度設置するとのことであるが、経費面において個人負担はどの程度になるのか。また消防署との連携は大丈夫か。対象外の方で有料でも設置してほしい旨の要望がある場合どう対処されるか。

答弁

予算でお願いしているのは七十五歳以上三十三名の設置であるが、この設置費については国の補助基準に基づいてさせていただこうとするもので、所得税非課税所帯であれば全額無料となる。ただ設置後の使用料については電話を使用する場合と同様の通話料の費用だけは各人のご負担でお願いしたい。消防署との連携についてはこの事業を計画するまでに協議をし大方の了解は得ているが、今後実施の段階で詳細な協議を進める。なお協議の中で、第一番に消防署であっては困るということなので、第三番目の受け皿としての連携になろうと思う。

また対象外の方についてはご希望があればその段階で充分にお話し合いをさせていただき検討いたしたい。

質問

平成二年度において授産事業に係る予算が計上されており、説明によれば事業を仮称心身障害者福祉の家の中に組み入れるとのことである。巨額を投じて全市における障害者の拠点を作っていただく、そこから団結の輪が広がり、また社会復帰等への立ち上がりの場所として。誠に喜ばしいことであるが、一般身体障害者と心身障害者とは自ずから同じ障害でも立場が違う。種々問題の中でこれらを混ぜたひとつの施設の中での融合は、役員会とか運営上の会合等はそのセンターでよいが、そこにとりこんでの交流は絶対できないと考える。今までの経緯、行政の対応等を見るに、色々な部分に取り違え、認識の違いがあり、今それら関係者により、太陽の家若狭の里たとえ拠点は小さくてもほのぼのとした火をつけていこう、自分たちで守っていこうという運動が起きている。こういう中で事業をうまく運営できるのか。

また、九月に補正された補助金をつい最近支給されて、補正予算というのは緊急性はないのか。

答弁

心身障害者の授産事業については県の補助も得られるよう交渉してきたところ、平成二年度において補助対象事業として認められる目鼻がたったので、補助要項に定められている公共建造物にこの事業を移させていただき、障害者授産事業のより充実を図っていきたいと考え、多年のご希望であったふれあいの場として旧小浜幼稚園跡を仮称小浜市心身障害者福祉の家として整備し、作業ができるスペースを確保して授産事業を実施したいと考えているが、今承れば勉強不足の点も確かにあるようで、また行政の意図するところも是非ご理解いただきたいと思うので、早々機会をいただきお話し合いを持ちたい。

補助金の緊急性については交付規則により当該補助事業が完了した後において交付することになっており、一般的な補助金であると事業の実績をみてからということで年度末近くになる訳だが、この内容が報償費的なものも含んでいる関係から、ご指摘のように何回かに分けて早く出すべきであったと反省している。

道路橋梁

質問

近畿自動車道敦賀線に係る県会での知事答弁あるいは新聞報道等によると、昇格は非常に厳しいとされているが、どんな受け止め方をされているか。また環境アセスメントのルートは予定どおり発表されるのか。

答弁

環境アセスメントは整備計画に向け今年夏にも公表の見込みと聞いている。しかし本路線全線が整備計画へ格上げされることは非常に厳しいものと認識している。本件については県においても最重要課題として取り組んでいただいており、環境アセス公表の前に東京での総決起大会の開催を予定されるなど実現に向け